

令和元年6月24日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K16966

研究課題名（和文）現代医療環境における生の人類学

研究課題名（英文）Anthropological study of life in modern medicine

研究代表者

山崎 吾郎（Yamazaki, Goro）

大阪大学・COデザインセンター・准教授

研究者番号：20583991

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、現代医療の場面でみられる身体への技術的介入の諸形式を検討することで、人為性と自然性といった従来の認識フレームワークの諸前提を再検討した。特に、行動経済学の知見を用いた制度的な介入のあり方や、環世界論に着目した人類学的技術論について検討を行った。技術的介入の形式を問うことは、価値や秩序の変容が、個人の身体にとどまらず、社会体（social body）の変容を理解する上でも必要になる。そしてこれは、AIをはじめとする新技術の社会受容を考える際にも避けておれないテーマとなる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代の社会は知識基盤社会であり、科学技術の応用によって生活環境にも大きな変化がもたらされる。このとき、技術的な解決は、別のコンテキストで別の問題を生み出すことがわかっており、現代社会の理解には、そうした動態をとらえるための一貫した技術観が必要となる。新技術の導入にともなう倫理的問題やリスクの問題も、人間性や人間の本性に立ち返ることで扱いきれないのが実情であり、技術に根ざした人間性を理解するための概念と方法が必要になる。環世界論は、こうした技術論を展開するうえで重要な視点をもたらしてくれる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we reconsider the assumptions of the traditional cognitive framework, such as humanity and naturalness, by examining the forms of technical interventions to the human body seen in the context of modern medical practices. In particular, we examined the state of institutional interventions seen in behavioral economics and redefined the concept of technology from the perspective of Umwelt. The question of the form of technological intervention also requires the understanding of the transformation of social values, not only in the individual's body, but also in the social body. And it is a theme that can not be avoided when considering the social acceptance of emerging technologies such as AI.

研究分野：文化人類学

キーワード：医療人類学 制度 自然と文化 身体 環世界

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現代の医療人類学では、身体と技術の関係性から社会の再編プロセスを明らかにすることが、重要な研究課題になっている。人間が生きる世界の人為性や自然性、そして身体にとっての他者性を再定義する、新しい技術論を構築することが、重要な研究テーマとなる。

2. 研究の目的

現代の医療実践を事例として、技術的環境の動態を明らかにすることから社会性や身体性を問い直す。

3. 研究の方法

フィールドワークを実施し、基礎的なデータの収集と分析に努める。プラグマティズムの真理論に注目しながら、医療現場でみられる実践の意味を理論的な観点から考察する。こうした作業を通じて、科学的な知識の製作プロセスや、宗教的経験に伴う知識の製作プロセスといった先行研究との比較をとおして、技術的・身体的な実践から生み出される知識と秩序の特徴を明らかにする。そして、技術によって媒介された生の問題を、従来の技術論のなかに位置付けて理解する。

4. 研究成果

本研究では、現代医療の場面でみられる身体への技術的介入の諸形式を検討することで、人為性と自然性といった従来の認識フレームワークの諸前提を再検討した。行動経済学の知見を用いた制度的な介入のあり方については、臓器移植の提供数増加のためになされる制度設計が、従来の文化論に対して新しい論点をもたらすこと、また同時に政策的介入が大きな倫理問題を内包していることを明らかにした。環世界論に着目した人類学的技術論の検討については、人類学の学説史のなかにみられる技術論の再検討を行い、現代の科学技術社会論や科学技術の人類学との接点を明らかにし、今後の研究の展望を示した。技術的介入の形式を問うことは、価値や秩序の変容が、個人の身体にとどまらず、社会体 (social body) の変容を理解する上でも必要になる。そしてこれは、AIをはじめとする新技術の社会受容を考える際にも避けておれないテーマとなる。新しい研究テーマとして、自動運転技術の導入を事例とした社会秩序の再編プロセスについて検討を開始した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計2件)

- ・ YAMAZAKI, Goro, The Body with Anonymous Organs: Transformation of the Body and the Social in Organ Transplantation, *NatureCulture* 4: 59-75, 2017年(査読有)
- ・ 山崎吾郎、「消滅と無為の実践論：自然の人類学における翻訳の問題」、『思想』第1124号、92-104頁、2017年(査読なし)

[学会発表](計6件)

- ・ YAMAZAKI, Goro, Collaborative project on automated vehicle systems in a depopulating area in Japan, *UCL-OU Kick-off Partnership Event*, 2019年
- ・ YAMAZAKI, Goro, Transformation of the natural process in the depopulating society, *Visible and Invisible: Infrastructure & Politics of Cohabitation*, 2017年
- ・ YAMAZAKI, Goro, Changing social order under the condition of population decrease in Japan, *CASCA/IUAES 2017*, 2017年
- ・ YAMAZAKI, Goro, Ambiguous Ontology and the Anthropology of Nature, *International Symposium on Viveiros de Castro, Metaphysics and Anthropology*, 2017年
- ・ 山崎吾郎、「グローバルゼーションと臓器移植：渡航移植の正当性をめぐって(シンポジウム)：

臓器移植と正義)、第 28 回日本生命倫理学会年次大会 2016 年

- ・山崎吾郎、「あいまいな存在論と身体の人類学(セッション:現代人類学による思想史の冒険)」、第 41 回社会思想史学会大会、2016 年

〔図書〕(計 4 件)

- ・松村 圭一郎・中川 理・石井 美保編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019 年(担当:共著, 範囲:第 2 章「技術と環境:人はどうやって世界をつくり、みずからをつくりだすのか」, pp. 29-43.)
- ・納富信留・檜垣立哉・柏端達也編『よくわかる哲学・思想』ミネルヴァ書房 2019 年(担当:共著, 範囲:「人類学と哲学」, 「STS (科学技術社会論)」, 「医療倫理・生命倫理」, 「ケアの哲学」)
- ・大竹 文雄, 平井 啓『医療現場の行動経済学:すれ違う医者と患者』東洋経済新報社 2018 年 (担当:共著, 範囲:第 9 章「臓器提供の意思をどう示すか」, pp. 185-199.)
- ・岸上伸啓編著『はじめて学ぶ文化人類学:人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房 2018 年 (担当:共著, 範囲:「フィリップ・デスコラ」, pp. 282-287.)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

<https://researchmap.jp/read0152533/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

(2) 研究協力者

研究協力者氏名:

ローマ字氏名:

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。